

大学創立 70 周年記念事業に対する同窓会の「支援募金」についての基本資料
---------------------------------------

## 【I】主な取り組み経過など

## ★平成 25(2013)年 11 月 18 日・・・平成 25 年度第 1 回三者協議会(大学・同窓会・後援会)

＜大学が「創立 70 周年記念事業」の基本構想などを説明＞●記念事業の基本コンセプトは、創立 100 周年をも視野に入れ、大学の記念事業実行委員会で詰めている●記念事業には、市など公的な補助金の対象にならない施設整備などを含めることとし、この費用は寄付金で調達●この対象として新図書館に関連する備品整備、留学生会館(仮称)の設置などを検討中●寄付金の募集は大学、同窓会、後援会の三者が共同で取り組む。一般法人化した後援会からは、大学の基金に寄付する形で記念事業への寄付金として3億7千万円の提供を決定済み(平成 23～28 年度の6年間で分納＝覚書締結済み)●同窓会は記念事業を支援する立場から、後援会とともに大学の記念事業実行委員会の寄付金部会に委員を参画させる意向を表明●同窓会としては、留学生会館(仮称)の設置費用を寄付金で賄うことには疑義があり、今後、大学側と意見交換を続ける考えを表明。

【注】大学が創立(開学)記念の周年事業(募金活動を含む)を主体的に企画、実施するのは、今回の大学創立70周年記念事業が初めてである。

## ★平成 26(2014)年 2 月 18 日・・・大学の実行委員会第1回寄付金部会 (同窓会委員＝野田副会長／福田事務局長が出席)

●記念事業実行委員会の組織体制の確認●事業概要の検討(学生支援の充実関係→→新図書館開館に伴う整備等／施設整備および改修(北方・ひびきの)／その他在学生への支援)●募金の対象範囲・役割分担→→大学＝学内教職員(OB含む)・市内および近隣自治体の企業／後援会＝学生の保護者／同窓会＝卒業生・OB在籍の企業●募金目標総額→→約1億5千万円(※後に約1億4千万円)●留学生会館(仮称)は国際交流会館(仮称)と名称変更し、事業の性格をグローバル化の推進に修正。※最終的には、「(仮称)国際交流施設」と名称を修正し、整備費の財源は「基金」にした。

## ★平成 26(2014)年 4 月 21 日・・・同窓会本部:平成 26 年度第1回役員会

平成 26 年度の運営・活動方針で「大学創立70周年記念事業への積極的な支援」／主要事業項目で「大学創立70周年記念事業の実施について大学との連携を密にし、積極的に関与していく」を掲げることを決定。

★平成 26(2014)年 5 月 9 日・・・同窓会本部役員と大学事務局との第1回意見交換会  
(同窓会＝奥村幹事長／野田副会長／福田事務局長)

記念事業に挙げている国際交流会館(仮称)の設置目的などについて、大学側と同窓会との見解が必ずしも一致していないことから、財源調達問題なども含め、双方が意見交換した。大学側は財源の確保について寄付金以外の方途を模索していることを説明した。

★平成 26(2014)年 5 月 30 日・・・同窓会本部役員と大学事務局との第2回意見交換会  
(同窓会＝奥村幹事長／野田副会長／福田事務局長)

大学側が新図書館の建設工程、機能、資金計画などや現図書館の活用方法の考え方を説明。また国際交流会館(仮称)については、大学の役員会で決定済みなので、今後、事業実施の手法などが妥当かどうかについて検討を急ぐ考えを示した。同窓会側は、過去、大学の創立記念事業支援の寄付金活動をしたが、今回は同窓会の周年事業ではなく、バブル期とは違い、寄付金集めはかなり難しい、との思いを説明。募金をお願いする趣旨についても、説得力のあるものでなければいけない。「困ったときの同窓会頼み」では困るとの声もある、と指摘した。

## ★平成 26(2014)年 5 月 31 日・・・同窓会:平成 26 年度第1回評議会

執行部は、大学創立 70 周年記念事業の支援に関する平成 26 年度の運営・活動方針および主要事業項目を評議会に提案し、原案どおり承認された。(※北友会会報 110 号に掲載)

## ★平成 26(2014)年 8 月 4 日・・・大学の実行委員会第 2 回寄付金部会 (同窓会委員＝野田副会長／福田事務局長が出席)

●大学の創立 70 周年記念事業実行委員会は、以下の【事業目的(コンセプト)】を決定したことが報告された。【本学が目指す3つのビジョン——「地域」、「世界(地球)」、「環境」——をキーコンセプトとし、30 年先(創立 100 周年)の未来へ向かって、地域に根差し、世界に活躍のフィールドを広げ、地球規模のエネルギー・公害問題克服・生命など持続可能な環境共生社会の実現に向けて、大きく羽ばたくことを目

的とする】●大学側が記念事業の費用と財源について資料を提示⇒⇒総事業費＝約 27 億円／寄付金を充てる事業費(募金の目標額)＝約1億 4,000 万円。内訳は新図書館の本体建設費を除く関連整備費(7,000 万円):北方・第1サークル会館改修(2,000 万円):北方・厚生会館改修(3,300 万円):ひびきの・サークル棟整備(1,000 万円):創立 70 周年記念誌(700 万円)

★平成 26(2014)年 8 月 18 日・・・同窓会本部:平成 26 年度第 5 回役員会

同窓会本部役員会に「大学創立70周年記念事業支援推進委員会」(略称:大学 70 周年支援推進委員会)を設置。田村会長を委員長、奥村幹事長を副委員長に、副会長、幹事長、副幹事長、幹事ら合計 15 人で構成。(※平成 27 年 1 月 24 日の役員会で、野田副会長も副委員長に就任して「副委員長の 2 人制」と幹事 1 人を追加して合計 16 人体制を了承)

★平成 26(2014)年 10 月 2 日・・・大学の実行委員会第 3 回寄付金部会 (同窓会委員＝野田副会長／福田事務局長が出席)

●記念事業募金の「趣意書」の構成素案が提示されたが、2 ページ目に同窓会会長と後援会会長の顔写真入りの「ご挨拶文(お願い)」を配するレイアウト案は、同窓会と後援会が記念事業の「共催者」と誤解されるので、このレイアウト案を変更するよう大学事務局に申し入れた。その後、このページレイアウトをやめ、卒業生(同窓会会員)に送付する趣意書には、当初案どおり同窓会会長の「お願い状」を添付することになった●寄付金をお願いする対象者について、大学、同窓会、後援会関係の個人、企業、団体のリストアップを進めることを確認。大学が作成の第 1 次リストを提示。

★平成 26(2014)年 11 月 8 日・・・同窓会:平成 26 年度第 2 回評議会

執行部が「大学創立 70 周年記念事業への支援に関する基本方針」の議案を提案。併せて、寄付金部会で提示された「70 周年記念事業」の計画案を基に執行部の責任で作成した「概要版」(実施・推進体制のイラストを含む)を配布した。その際、募金活動は大学、同窓会、後援会の三者が一体となって取り組むことをあらためて強調し、新年早々には、会長名のお願い状を添付した「募金趣意書」がすべての同窓会会員に送付されるので、評議員に募金への協力をお願いした。この基本方針は付帯する文書を含め、提案どおり承認された。(※議案の全文、付帯資料は北友会会報 111 号に掲載)

★平成 26(2014)年 11 月 9 日・・・第 64 回同窓会総会

総会テーマは、2 年後の大学創立 70 周年に向けた記念事業の盛り上げを図るフレーズ「発進 母校とともに新時代へ」を掲げ、パンフレットの会長と学長の挨拶文でも 70 周年記念事業への結集や協力を呼び掛けた。また、総会後の特別講演では、講師の近藤学長が「大学の今、そしてこれから」と題した演題で、発展する母校の姿を紹介し、創立 70 周年の記念事業をバネに、さらなる飛躍を目指す大学への協力を訴えた。

★平成 26(2014)年 11 月 25 日・・・大学の実行委員会第 4 回寄付金部会 (同窓会委員＝野田副会長／福田事務局長が出席)

●「募金趣意書」の修正作業を経た「確定案」が提示され、寄付金部会はこれを了承した。【注＝12 月 2 日の第 4 回実行委員会で最終決定／添付する同窓会会長名の「お願い状」は 12 月 4 日に大学事務局に提出】●趣意書の送付は、すべての卒業生(同窓会会員)の約 33,000 人(住所判明分)を対象にすることを確認。【注＝これを受け、同窓会は例年、12 月発行分の北友会会報は会費未完納者には送付していないが、111 号(12 月 25 日発行)には「大学創立 70 周年記念事業への支援に関する基本方針」を載せていることから、111 号は未完納者にも特別に送付し、この会報には会長名による特別送付の理由を説明した書状(会費完納のお願いも併記)を同封することにした】●大学が担当する寄付金募集で、対象として作成した企業や団体のリストが提示された。これに加えるため、学部長経由で所属教員に対して寄付金募集の対象企業・団体の調査票を配布し、新年 1 月 9 日までの提出を求めている。作成した企業リスト(市内 131 社、市外 50 社)については、大学事務局の課長以上の職員 15 人が 2 人 1 組で担当する募集依頼割り当てが記載されている。新年 1 月上旬から担当者が企業訪問による募金依頼を開始する予定としている。今後、OB が関係している企業を訪問する際は、同窓会からも同行してもらえないか、との要請があった。

★平成 26(2014)年 12 月 21 日・・・創立 70 周年の創立記念日(平成 28 年 5 月 4 日)の 500 日前

大学がホームページ(HP)に「大学創立 70 周年記念特設サイト」を開設。記念事業の内容の紹介のほか記念事業募金趣意書を掲載。併せて HP から記念事業の募金受付を開始。大学の記念事業実行委員会(委員長＝近藤倫明学長)は、この日を「創立記念事業のキックオフ」と位置付けていた。

★平成 27(2015)年 1 月 21 日～・・・大学の記念事業実行委員会が卒業生に「創立記念事業募金趣意書」など募金に関する一式資料の郵送を開始

※送付総数は、住所判明分の既卒の同窓会会員 33,000 人で、ラベルデータは同窓会本部が大学に提供。一式資料には、「北九州市立大学同窓会 すべての会員の皆さまへ」の宛名で、田村会長の「大学創立 70 周年記念事業支援募金へのご協力のお祝い」と題した書状を同封した。

★平成 27(2015)年 1 月 24 日 …… 同窓会本部:平成 26 年度第 10 回役員会

同窓会本部役員会は、「大学創立 70 周年記念事業支援募金同窓会実行委員会」(略称:大学 70 周年支援募金同窓会実行委員会)の設置を決定。本部役員会と全国 48 支部で構成する「同窓会支援募金ネットワーク」で、2~3 月の諸準備活動を経て平成 27 年度早々の 4 月冒頭の正式始動を確認。

★平成 27(2015)年 3 月 11 日 …… 支援募金同窓会実行委員会の「基本的資料」を全支部に送付

※各地の支部総会に出席した本部役員が「基本的資料」などを基に、支援募金活動への参加呼び掛けを開始。

★平成 27(2015)年 4 月 4 日 …… 支援募金同窓会実行委員会基幹会議:第 1 回会議を開催

実行委員会の支援募金活動の実質的な決定機関である「基幹会議」の第 1 回会議を同窓会館で開催。本部役員で構成する支援推進委員会のほか、登録会員 1,000 人以上の 12 支部の支部長(12 人) = 副実行委員長 = が出席し、支援募金同窓会実行委員会の設置や運営体制、支援募金活動などを確認した。同窓会の支援募金活動が正式に始動した。

★平成 27(2015)年 5 月 30 日 …… 同窓会:平成 27 年度第 1 回評議会 / 支援募金同窓会実行委員会:第 1 回全体会議・支部地区別募金部会

評議会の議事終了後、実行委員会:第 1 回全体会議を開き、基幹会議(4 月 4 日)で決定した支援募金活動の内容などを報告。引き続いて開いた支部地区別募金部会では、支部ごとの支援募金活動の推進について多面的な論議を深めた。

★平成 27(2015)年 8 月 19 日 …… 大学の実行委員会第 5 回寄付金部会

募金趣意書の記載事項の一部に誤りがあった(個人法人とも所得税の寄付金控除は、所得控除のみ、税額控除は適用されない)ので訂正した。趣意書を詫び文と共に全国の卒業生に送付した。また、寄付者(個人・法人)の名前を銘板に記載し、新図書館の内か外に設置する。(この場合、個人は 5 万円以上、法人は 10 万円以上の寄付者を対象とする)

★平成 27(2015)年 9 月 12 日 …… 支援募金同窓会実行委員会基幹会議:第 2 回会議を開催

第 2 回会議を同窓会館で開催し、支援推進委員会のこれまでの取り組み状況や各支部での支援募金活動の現在の取り組み状況の他、基幹会議:第 1 回会議での「支援募金」推進に関する提案・意見の集約などを報告した。

支援募金活動の目標設定については、募金活動への参加率の向上を目ざす事とし、向こう 2 年間の長丁場を 4 クールに分け、半年毎に戦略を立てて取り組むこととした。

この他、支援募金活動を盛り上げるために「同窓会川柳」の募集を行う。

★平成 27(2015)年 10 月 19 日 …… 大学の実行委員会第 1 回式典等事業部会(同窓会委員 = 奥村幹事長 / 福田事務局長が出席)

創立 70 周年記念事業の式典・祝賀会の開催日程ならびに開催会場について協議。記念講演会の開催について検討。

★平成 27(2015)年 10 月 24 日 …… 同窓会:平成 27 年度第 2 回評議会 / 支援募金同窓会実行委員会:第 2 回全体会議・支部地区別募金部会

評議会の議事終了後、実行委員会:第 2 回全体会議を開き、冒頭、北九州市立大学創立 70 周年記念事業実行委員会・寄付金部会委員長の梶原昭博副学長から、これ迄の寄付金の募金活動に関して、全国 48 支部の支部長並びに同窓生に対し絶大な支援・協力をしていただいている事に対して感謝の言葉があり、加えて目標の 1 億 4000 千万円達成に向けて、今後ともより一層の協力をお願いしたい旨の挨拶があった。

この後、支部地区別募金部会に分かれ本部役員もそれぞれに加わり、特に支部での取り組み状況や現状・問題点などについて相互に意見・情報交換と特徴的な取り組み内容の紹介などを行った。

★平成 27(2015)年 10 月 25 日 …… 第 65 回同窓会総会:リーガロイヤルホテル小倉で開催

総会テーマは、いよいよ 1 年後に迎える大学創立 70 周年に向けて記念事業を盛り上げようと「翔べ母校とともに新時代へ」を掲げ、また、同時にひびきのキャンパスも 1 年後には開設 15 周年を迎えることから「イノベーションの扉 — 国際環境工学部の研究者たち —」と題し、梶原副学長の記念講演を皮切りに 2 人の教授によるバイオテクノロジー関連などの特別講演があり、日頃、古くからの同窓会会員に余りなじみのない「ひびきのキャンパス」の活発な活動の一端の紹介があった。

ひびきのキャンパスでも「環境技術研究所」や「サークル棟」の建設が、この記念事業として予定されている。

★平成 27(2015)年 12 月 3 日・・・大学の実行委員会第 6 回寄付金部会

高額寄付者の氏名などを記載した銘板を新図書館内外に設置することを決めた。個人では5万円以上、法人では10万円以上の寄付を行った者とし、法人格を持たない団体などについてと、同窓会の支部や大学のサークルOB会など卒業生を中心にした個人の集まりのグループについては、個人5万円以上の掲載基準を適用することとした。

★平成 27(2015)年 12 月 15 日・・・大学の実行委員会第 2 回式典等事業部会

創立70周年記念式典および祝賀会の開催日は、平成28年11月4日(金)に決定した。

開催場所については、学内・学外それぞれについてメリット・デメリットを比較検討し、次回の会合で決定することとした。

★平成 28(2016)年 2 月 2 日・・・大学の実行委員会第 3 回式典等事業部会

創立70周年記念事業の記念式典・祝賀会の会場は様々比較検討の結果、いずれもリーガロイヤルホテル小倉で開催し、コンセプトは「学生とともに作る周年事業」とし、学生の参加を積極的に促し、教員、職員、学生、そして同窓生や企業、地域と一体となって記念事業を盛り上げる内容とする。

★平成 28(2016)年 4 月 9 日・・・支援募金同窓会実行委員会基幹会議:第 3 回会議を開催

大学創立 70 周年記念事業の“目玉事業”と位置付けた新図書館の完成・開館セレモニーが 4 月 4 日の入学式当日に行われ、間もない 4 月 9 日に基幹会議:第 3 回会議を開催した。

新図書館の本体建設費の約 14 億円は大学設置者の北九州市が負担したが、在学生(学生会員)が熱望している厚生会館やサークル会館の補修などの実現には支援募金活動の成功が何より重要。

基幹会議構成員である副実行委員長(支部長)の皆さんに事前に依頼していた①平成 27 年度の支援募金活動を振り返って②平成 28 年度支援募金活動への取り組みについてのアンケート結果に基づきそれぞれの支部での取り組み状況の報告と今後の取り組みについて実施を考えている企画などについて発表をもらった後、事務局より全国の支部の3ヶ月ごとの募金集計結果を支部総会や支援募金の依頼状を送付した支部が支援募金の実績を伸ばしている現状などについて報告をした。いよいよ第 3 ステージに入ってきたので具体的な取り組みについての方針を決定し、今後、第 4 ステージの前半・後半に分けて、それぞれ支援募金への参加率達成目標を設定することとした。平成 28 年年度末(支援募金受付期間終了)には、最終目標として 20%の参加率(金額で 1 億円)を目ざし全力で取り組むことを決めた。

★平成 28(2016)年 5 月 21 日・・・同窓会:平成 28 年度第 1 回評議会／支援募金同窓会実行委員会:第 3 回全体会議・支部地区別募金部会

平成 27 年度事業・決算報告、平成 28 年度事業計画・予算などの審議の後、田村允雄会長の任期満了(平成 22 年 5 月から平成 28 年 5 月までの 3 期 6 年)に伴い新しく善正善氏を第 11 代会長に選出した。議事が終了後、実行委員会第 3 回全体会議を開き、4 月 9 日に開催した第 3 回基幹会議の報告や、第 3 ステージにおける各支部の取り組みと第 4 ステージに向けての活動方針などをアンケートに基づき説明した。この後、支部地区別募金部会に分かれ、本部役員もそれぞれ加わり、支部での現状および今後の取り組みや、報告・問題点について意見交換を行った。

★平成 28(2016)年 5 月 23 日・・・大学の実行委員会第 4 回式典等事業部会

11 月 4 日(金)リーガロイヤルホテル小倉で開催する記念式典・祝賀会への招待者・参加者および記念品、記念講演会の講師について協議。

★平成 28(2016)年 7 月 13 日・・・高額寄付者氏名を刻んだ銘板の設置セレモニー

近藤学長・善同窓会会長・佐藤後援会会長などが出席して、法人で 10 万円以上、個人で 5 万円以上の寄付者の社名・氏名を刻んだ銘板が新図書館 1F 入ってすぐ右側のギャラリーに設置された。

## 【Ⅱ】大学創立 70 周年記念事業の「事業目的」「寄付金募集の目的と使途」など

### ■事業目的(キーコンセプト)

本学が目指す3つのビジョン—「地域」、「世界(地球)」、「環境」—をキーコンセプトとし、30 年先(創立 100 周年)の未来へ向かって、地域に根差し、世界に活躍のフィールドを広げ、地球規模のエネルギー・公害問題克服・生命など持続可能な環境共生社会の実現に向けて、大きく羽ばたくことを目的とする。

## ■寄付金募集の目的と使途、事業期間など（※Q&A）

### ★寄付金を募集する理由について

新図書館の本体建設費を除く設備・機能充実のための費用あるいは教育・研究施設ではないサークル会館や厚生会館などの整備・改修費用は、関係法令（大学設置基準）等で設置者（北九州市）による公的資金（補助金）の投入が認められていない。このためこれらの費用は大学の運営者である「公立大学法人北九州市立大学」が賄わねばならないが、大学独自の内部資金も限りがあり、学生にとって意義深い創立 70 周年にするうえで、これらの費用を大学・同窓会・後援会が一体となった寄付金募集で調達することになった。

### ★寄付金の使途について（※平成26年 12 月現在）

・新図書館の本体建設費を除く関連整備費	7,000万円
・北方・第1サークル会館改修	2,000万円
・北方・厚生会館改修	3,300万円
・ひびきの・サークル棟整備	1,000万円
・創立 70 周年記念誌	700万円
合 計	1億4,000万円（※募金目標額）

### ★寄付金募集事業期間について

平成 27 年 4 月 1 日 ～ 平成 29 年 3 月 31 日（※募集開始は平成 27 年 1 月から）

## 【Ⅲ】過去、同窓会が行った「大学創立（開学）」「同窓会創立」記念事業の募金活動と実績など

### ■開学 40 周年記念事業（土谷清会長）※昭和 60 年 3 月の会員＝22,800 人

★事業期間 →⇒ 昭和 60(1985)年 10 月 1 日～昭和 62(1987)年 9 月 30 日

★募金総額 →⇒ 1 億円（※後援会からの寄付金 2,000 万円含む）(1口 5,000 円)

★主な使途（※金額の千円以下は切り捨て）

・大学の発展に関する事業	→⇒ 国際交流基金の創設寄付金	4,300万円
	→⇒ 体育館兼講堂の緞帳一式寄贈	1,350万円
	→⇒ 建学碑(ブロンズ像「飛翔」)寄贈	530万円
	→⇒ 校旗	90万円
	小計	6,270万円
・同窓会の充実関係	→⇒ 会員名簿の発刊	765万円
	→⇒ 事務局のコンピューター化	889万円
	小計	1,654万円
・記念行事	→⇒ 記念式典	183万円
	→⇒ セレモニー(記念講演ほか)	587万円
	小計	770万円
・事務経費(人件費/募金活動諸経費)		1,467万円
	合 計	1億160万円

### 《記念事業実行委員会の組織構成の特徴》

会長を最高責任者に置いた記念事業実行委員会は、実行委員長——副実行委員長(本部役員・ブロック代表の支部長ら23人)——下部組織として事業委員会(第1～4部会)/募金委員会/事務委員会/支部委員会(全支部の支部長、役員)で構成した。これは同窓会史上、前例のない“マンモス実行委員会組織”であった。当時の会長はじめ本部役員らの「並外れた愛校心」や「強いリーダーシップ」が、募金目標「1億円」を掲げさせ、この目標達成に向けての大組織構築になった。当時の北友会会報の綴りをめくると、「燃え盛る募金活動」が伝わってくる。しかし、30 年後の今の同窓会には、そのエネルギーがあるかどうかを冷静に見極める必要がある。

### ■同窓会創立 50 周年記念事業（江口博明会長）※平成 11 年 3 月の会員＝36,200 人

★事業期間 →⇒ 平成 11(1999)年 4 月 1 日～平成 13(2001)年 3 月 31 日

★募金総額 →⇒ 5,500 万円（※目標は 5,000 万円）(1口 5,000 円)

★主な使途（※金額の千円以下は切り捨て）

・同窓会の活動関係	→⇒ 支部還元金	1,364万円
	→⇒ 同窓会 50 年史の発刊	525万円

	→⇒ 同窓会旗の製作など ……………	228万円
	→⇒ 支部実行委員会への出張旅費など…	84万円
	→⇒ ビデオ制作費 ……………	57万円
	→⇒ 第 50 回総会分担金 ……………	50万円
	→⇒ 会計寄付金システム作成費 ………	30万円
		<u>小計 …… 2,338万円</u>
・大学に対する支援事業	→⇒ 施設整備などへの寄付金 ………	1,500万円
	→⇒ 校歌碑の建立贈呈 ……………	210万円
	→⇒ 校旗の新調 …… (※同窓会旗の製作費に包含)	
		<u>小計 …… 1,710万円</u>

※その他、事務経費(人件費、募金活動諸経費)などは省略

#### ≪記念事業実行委員会の組織構成の特徴≫

開学 40 周年記念事業の際と同様、会長を最高責任者にして記念事業実行委員会を設置した。同窓会の創立記念事業とともに、大学への施設整備費用の大型寄付金も記念事業に組み込んだこともあり、実行委員会の構成も開学 40 周年記念事業実行委員会の構成をほぼ踏襲した。支部ごとの「募金目標額」を設定して支部実行委員会の活動を督励したのも特徴。この時期は職域支部がまだ存在し、特に北九州市役所支部は開学 40 周年記念事業募金の際にも大きな貢献をしたが、同窓会創立 50 周年記念事業の募金でも目標額を達成するなど頼もしい存在だった。

【注＝1県1支部の執行部方針により、平成 14 年度から職域支部の北九州市役所支部、北九州教職員支部、福岡県庁支部の3支部が廃止された。これ以降、とりわけ北九州市職員の会員約 700 人の“同窓会離れ”への対応が大きな課題である】

(了)